

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第14週の発生動向

トピックス

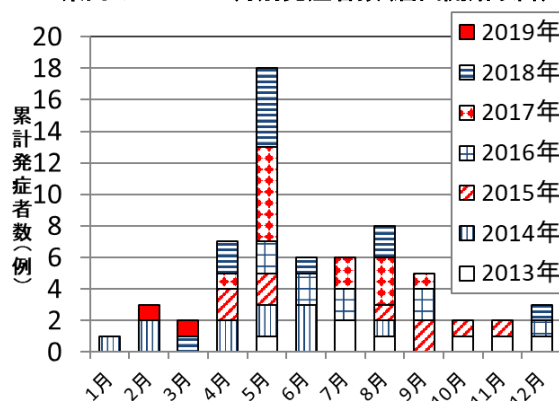
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

(全数報告の感染症) の報告が延岡保健所管内からあった。患者は50歳代男性で、発症は3月下旬である。ダニの刺し口は確認出来なかった。県内での報告は今年2例目で、累計63例(平成25年3月届出開始以降)となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	3	14	22	15	5

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



全数報告の感染症 (14週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、レジオネラ症1例。
- 5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、百日咳6例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	都城	40歳代	女	無症状病原体保有者	—
		延岡	40歳代	男	肺結核	咳
			60歳代	男	無症状病原体保有者	—
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	50歳代	男	—	発熱、頭痛、下痢など
	レジオネラ症	高鍋	70歳代	男	肺炎型	発熱、意識障害、肺炎
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	都城	70歳代	男	—	ショック、肝不全、腎不全、DIC
		延岡	60歳代	女	—	ショック、腎不全、軟部組織炎など
	百日咳	宮崎市	5~9歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、嘔吐
			5~9歳	女	—	持続する咳
		都城	10歳代	男	—	持続する咳
			10歳代	男	—	持続する咳
	高鍋	5~9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み	
10歳代		男	—	持続する咳、夜間の咳き込み		

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は660人(定点当たり18.9)で、前週比102%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

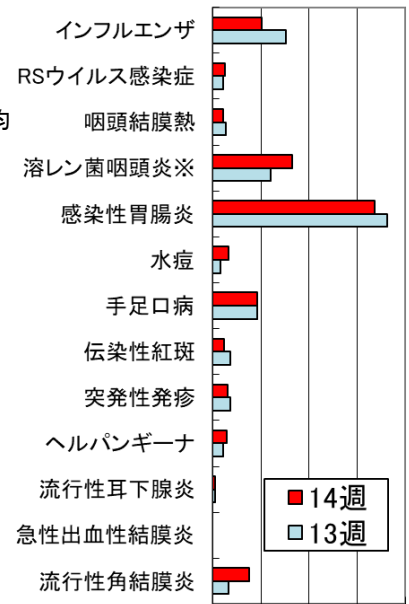
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は115人(3.3)で、前週比138%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(2.1)の約1.6倍である。宮崎市(6.0)、高鍋(5.3)、延岡(4.3)保健所からの報告が多く、年齢群別では4~6歳が全体の約4割を占めている。

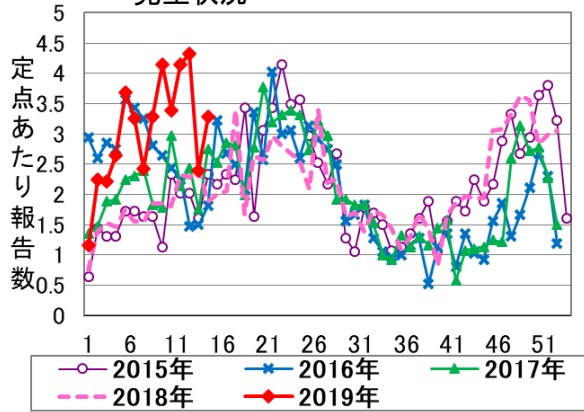
【手足口病】

報告数は 64 人(1.8)で、前週比 98%とほぼ横ばいであるが、例年同時期の定点あたり平均値*(1.4)の約 1.3 倍である。都城(6.5)保健所からの報告が多く、年齢群別では 1 歳が全体の約 6割を占めている。 * 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

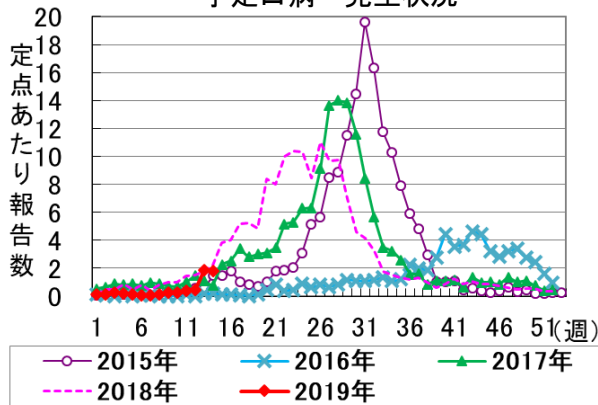
《前週との比較》



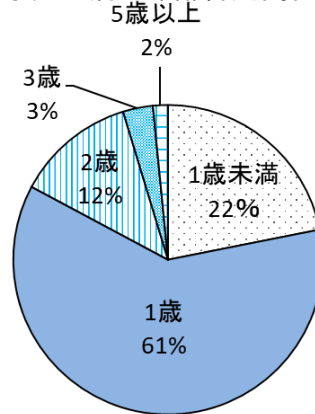
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
発生状況



手足口病 発生状況



手足口病 年齢群別割合



定点あたり報告数
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス) :

報告数は 1 例で宮崎市保健所からの報告であった。0~4 歳で、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	水痘(1.0)
都城	手足口病(6.5)
延岡	なし
日南	感染性胃腸炎(21.3)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	水痘(1.0)
日向	なし
中央	水痘(6.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

・感染性胃腸炎(20.0)

・水痘(2.0)

・手足口病(5.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

・水痘(1.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成31年4月8日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>houtenae</i> (血清型不明)	30歳代	男	2019.03.11	感染性腸炎、発熱(38.5℃)、上気道炎(咽頭炎)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2019.04.08
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	20歳代	女	2019.03.25	-	便	2019.04.02
<i>Salmonella</i> Heidelberg(O4:r:1,2)	10歳代	男	2019.03.28	-	便	2019.04.04

○30代前半の男性から *Salmonella enterica* subsp. *houtenae* が分離された。*Salmonella* は、哺乳類・爬虫類・両棲類・川及び食品に広く分布し、*S. enterica* と *S. bongori* の2菌種に分けられる。*S. enterica* はさらに、*enterica*、*salamae*、*arizonae*、*diarizonae*、*houtenae*、*indica* の6亜種が存在する。このうち、感染症や食中毒として重要となるのは *Salmonella enterica* subsp. *enterica* であり、毎年多数の血清型が報告されている。今回の疫学的背景は不明であるが、*Salmonella enterica* subsp. *houtenae* は爬虫類からの分離報告が多いことから、血清型不明の場合には、疫学情報等も考慮し、必要に応じて生化学試験等を追加し菌種を同定していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
アデノウイルス3型	5~9歳	男	2019.02.12	咽頭炎、38.9度	鼻汁	2019.04.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	40歳代	女	2019.02.13	インフルエンザA型、40.0℃、頭痛、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH1pdm09	10歳代	男	2019.02.16	インフルエンザA型、39.7℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH3	5~9歳	女	2019.02.18	インフルエンザA型、39.0℃	咽頭ぬぐい液	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH3	0~4歳	男	2019.02.18	インフルエンザA型、40.0℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH3	0~4歳	女	2019.02.25	インフルエンザA型、39.3℃	咽頭ぬぐい液	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5~9歳	男	2019.03.04	インフルエンザA型、38.7℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH1pdm09	0~4歳	女	2019.03.05	インフルエンザA型、38.6℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2019.03.26
インフルエンザウイルスAH3	30歳代	女	2019.03.07	インフルエンザA型、39.0℃、下気道炎(気管支炎)、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁	2019.03.26

○咽頭炎・発熱症状のある小児よりアデノウイルス3型が分離された。アデノウイルスは60以上の型があり、胃腸炎や出血性膀胱炎、流行性角結膜炎など、型によって症状が異なる。3型は主に咽頭結膜熱(プール熱)などの急性呼吸器疾患に関連する。

○インフルエンザと診断された8名からインフルエンザウイルスが分離された。本県において、今シーズンはAH3が21件、AH1pdmが20件、B型(ビクトリア系統)が2件、分離・検出されている。インフルエンザ定点当たりの報告数は減少傾向にあるが、引き続き注意が必要である。

🇯🇵 全国 2019 年第 13 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 13 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	365 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	28 例				
4類感染症	E 型肝炎	12 例	A 型肝炎	6 例	オウム病	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	2 例	つつが虫病	1 例	デング熱	5 例
	日本紅斑熱	2 例	ブルセラ症	1 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	11 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	23 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例
	後天性免疫不全症候群	21 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例	侵襲性肺炎球菌感染症	47 例
	水痘（入院例）	10 例	梅毒	80 例	破傷風	1 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	242 例	風しん	65 例
	麻しん	22 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 90%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎である。

手足口病の報告数は 609 人(0.19)で前週比 127%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値* (0.17)の約 1.1 倍である。鳥取県(2.4)、宮崎県(1.9)、熊本県(0.84)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳が全体の約 4 割を占めている。

伝染性紅斑の報告数は 1,594 人(0.50)で前週比 89%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (0.20)の 2.5 倍である。山形県(1.4)、石川県(1.3)、福岡県(1.2)からの報告が多く、年齢群別では 4～6 歳が全体の約半数を占めている。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2019年 第14週(04月01日～04月07日)

疾病名		第13週	第14週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	179	118	34	19	41	5		2	10	7	
	定点あたり	3.03	2.03	2.13	1.90	5.86	1.00	0.00	0.33	5.00	1.17	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	15	17	5	5				2		5	
	定点あたり	0.42	0.49	0.50	0.83	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	1.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	19	15	4	2	2	3	1	1		2	
	定点あたり	0.53	0.43	0.40	0.33	0.50	1.00	0.50	0.25	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	86	115	60	1	17	8	3	21		5	
	定点あたり	2.39	3.29	6.00	0.17	4.25	2.67	1.50	5.25	0.00	1.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	261	236	43	32	13	64	17	36	6	22	3
	定点あたり	7.25	6.74	4.30	5.33	3.25	21.33	8.50	9.00	6.00	5.50	3.00
水痘	報告数	12	23	10			2	1		1	3	6
	定点あたり	0.33	0.66	1.00	0.00	0.00	0.67	0.50	0.00	1.00	0.75	6.00
手足口病	報告数	67	64	5	39	14	3		1		1	1
	定点あたり	1.86	1.83	0.50	6.50	3.50	1.00	0.00	0.25	0.00	0.25	1.00
伝染性紅斑	報告数	26	16	6		2	4		3	1		
	定点あたり	0.72	0.46	0.60	0.00	0.50	1.33	0.00	0.75	1.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	22	8	3	4	2		2		2	1
	定点あたり	0.72	0.63	0.80	0.50	1.00	0.67	0.00	0.50	0.00	0.50	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	16	20	1	5	12	1				1	
	定点あたり	0.44	0.57	0.10	0.83	3.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	3	4	1		2	1					
	定点あたり	0.08	0.11	0.10	0.00	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	4	9	8	1							
	定点あたり	0.67	1.50	2.67	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～14週)

2類感染症	結核	44例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例			
4類感染症	E型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	2例(1)	チクングニア熱
	つつが虫病	3例	レジオネラ症	2例(1)	
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症
	クリプトスポリジウム症	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5例(2)	侵襲性肺炎球菌感染症
	梅毒	4例	破傷風	1例	百日咳

()内は今週届出分、再掲